

第四学年 年間指導計画

目標 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(ア) 文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。

(イ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。

(ウ) 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。

配当時間 30時間

月	単元名・(ページ)	時間	学習目標	学習活動	評価
9月	四 点画の方向と間かく「家」 (P18～19)	2	○点画の方向と、画と画との間隔に注意して書くことができる。	○点画の方向と間隔を確かめる。 ○字形にも注意して「家」を書く。 ○様々な点画の間隔や斜めの画の方向を確かめる。 ○硬筆に持ち替え、毛筆の筆使いを想起しながら、点画の方向と間隔に注意して手本文字を書く。	○払いの方向の違いや画間について理解している。 ○払いの方向の違いや画間について意識して書くようとしている。 ○点画の方向と画間に注意して書いている。
6月、7月	硬筆に生かそう 漢字の組み立て方 (P16～17)	5	○漢字の組み立ての上 下・左右の大きさに注意して、字形を整えて書くことができる。	○様々な組み立て方があることを確かめる。 ○組み立て方に注意して手本文字を書く。 ○「かまえ」「たれ」「によう」とそれ以外の部分とのつり合いを確かめる。 ○筆順を注意する字を確かめる。 ○筆順と、組み立てのつり合いに注意して手本文字を書く。	○様々な文字の組み立て方について理解している。 ○それぞれの組み立て方に注意して、筆順に従って書いている。
5月	三 漢字の組み立て「明星」 (P12～15)	5	○漢字の組み立ての上 下・左右の大きさに注意して、字形を整えて書くことができる。	○漢字の部分の大きさや組み立て方を確かめる。 ○文字の中心にも注意して、「明星」を書く。 ○同じ部分を持つ漢字の、組み立てによる大きさや形の変化を確かめる。 ○硬筆に持ち替えて、毛筆の筆使いを想起しながら手本文字を書く。	○文字の組み立てによる部分の変化を理解している。 ○上下の部分の大きさ、左右の部分の高さなどに注意して書いている。
4月	一 点画の交わり方とせし方「友」 (P6～7)	2	○点画の交わり方や接し方に注意して、字形を整えることができる。	○点画の交差・接筆の仕方について確認する。 ○字形を意識しながら、交差・接筆に注意して「友」を書く。 ○硬筆に持ち替え、交差の三例を確かめるとともに毛筆の筆使いを想起しながら手本文字を書く。	○様々な点画の交わり方や接し方に注意し、字形を整えて書いている。
	二 筆順と字形「左右」 (P8～10)	3	○筆順に注意して書くことができる。 ○点画の長短に注意して、字形を整えて書くことができる。	○筆順と字形・画の長短の関係、字形との関係を確かめる。 ○文字の中心、接筆の仕方にも注意して、「左右」を書く。 ○小筆の持ち方を確かめる。 ○硬筆に持ち替えて、毛筆の筆使いを想起しながら筆順に注意して手本文字を書く。	○筆順に従って正しく書いている。 ○横画と左払いの長短に注意して、字形を整えて書いている。 ○小筆の扱い方を理解し、書こうとしている。
	硬筆に生かそう (P11)		○毛筆で学習した筆使いを想起しながら、筆順に注意し、字形を整えて、硬筆で書くことができる。	○筆順の大まかな法則を確かめる。 ○筆順を間違えやすい字について、正しい筆順で書くことにより字形を整えることができることを確かめる。 ○正しい筆順で、字形を整えて手本文字を書く。	○筆順の大まかな法則を理解している。 ○毛筆の学習を生かして、筆順に注意すると字形が整うことを理解して書こうとしている。 ○間違えやすい筆順に注意し、字形を整えて書いている。
	・毛筆学習の進め方 (P3～5)	なし	○試し書きから自分の課題を見つけて練習し、まとめ書きをすることができる。 ○自分の書写学習の課題を持つことができる。	○一連の練習方法を知り、自学自習のための一つの手段として確認する。	○課題の見つけ方や練習方法など毛筆学習の進め方がわかる。 ○意欲的に毛筆学習に臨もうとしている。
	・書くときのしせいと用具のあつかい方 (P1～2)	なし	○正しい姿勢のとり方や筆の持ち方ができ、用具を正しく扱うことができる。	○毛筆用具の名称や机上の配置、用具の後始末を確認する。 ○椅子への座り方、背筋、肘の高さ、足の開き方など、毛筆書写の姿勢を確認する。 ○筆の持ち方を確認する。	○用具の名称が分かり、正しく丁寧に扱おうとしている。 ○正しい姿勢で書こうとしている。 ○正しい筆の持ち方を理解しようとしている。

12、1月	3月	2月	11月	10月	月
<p>九 書きぞめ 「美し 心」 (P41～42)</p>	<p>八 学習のまとめ 「成長」 (P32～35)</p>	<p>七 曲がりとしり 「元氣」 (P28～31)</p>	<p>六 文字の大きさと配 列(硬筆) (P24～25)</p>	<p>五 ひらがな 「ます」 (P20～22)</p>	<p>単元名・(ページ)</p>
3	なし	4	なし	4	時間
<p>○筆使いや文字の組み立て方など、既習事項を応用して中心に注意しながら書くことができる。</p>	<p>○筆記具や機器による文字(字体)の違いを知ることができる。 ○墨の製造工程を知り、興味を持つことができる。</p>	<p>○「曲がり」と「そり」の筆使い、はねの方向に注意して書くことができる。 ○筆使いや画の接し方など既習事項に注意して書くことができる。</p>	<p>○書き始めの位置や漢字と仮名の大きさ、文字の間隔やそろえ方に注意した書き方に気付く。</p>	<p>○毛筆で学習した筆使いを想起しながら、結びの筆使いと字形に注意して、硬筆で書くことができる。</p>	<p>学習目標</p>
<p>○書き初めを書くときの姿勢を知る。 ○毛筆の既習事項を思い出して書く。</p>	<p>○身の回りにある様々な字体から、気付いたことを出し合う。 ○墨の製造工程に興味を持つ。</p>	<p>○既習の筆使いや字形の整え方を想起し、注意するところを確かめる。 ○中心や画と画との間隔、画の方向などに注意して「成長」を書く。 ○硬筆に持ち替えて、字形の整え方を想起しながら手本文字を書く。</p>	<p>○プログラムやノート、新聞の例をもとに、読みやすさの工夫について確かめたり気付いたことを出し合ったりする。 ○曲がりと反りの筆使いを確かめる。 ○はねの方向にも注意しながら「元氣」を書く。 ○様々な曲がりや反りの書き方を確かめる。 ○硬筆に持ち替えて、毛筆の筆使いを想起しながら手本文字を書く。</p>	<p>○短歌三首を音読する。 ○毛筆の筆使いを想起しながら、結びの形や字形に注意して短歌三首を書く。</p>	<p>学習活動</p>
<p>○筆使いや文字の組み立て方など、既習事項を応用して書いている。 ○中心をそろえ、字配りよく書いている。</p>	<p>○身の回りの文字から、書字文化の特徴に興味を広げようとしている。 ○書写の用具や文化に興味を持ち、学習に生かそうとしている。</p>	<p>○既習事項に注意して、字形を整えて書いている。 ○四年で学習したことを応用して書いている。</p>	<p>○文字の大きさや配列などに注意してノートや新聞の書き方を工夫しようとしている。 ○読み手を意識して丁寧に書こうとしている。</p>	<p>○平仮名の「結び」を、毛筆での学習を生かして正しい筆使いや形で書いている。 ○平仮名の「結び」を、正しい筆使いや形で書いている。</p>	<p>評価</p>

※第四学年年間指導時数30時間の内、28時間を配当。余りの2時間は、児童の習熟度に合わせた学習や、興味・関心を養う学習を行うなど予備時間として充当する。